

平成 23 年度の決算について

1、はじめに

平成 23 年度は、葛飾医療センター完成に伴う設備支出、看護学科増員対応工事支出、並びに本院外来棟建築の為の内部蓄積実施を目指して運営されましたが、医療収入並びに補助金の増加と各機関の経費削減により、帰属収支差額（収益）は予算を上回る結果となりました。

2、資金収支計算書

施設関係・設備関係支出として 120 億円の固定資産投資を行いました。この内、葛飾医療センター建設に伴う投資は建物 52 億円、医療機器 26 億円でした。

次年度繰越金は 428 億円で、前年度比▲5 億円となりました。

3、消費収支計算書

収入の部では、医療収入が 829 億円と前年度比 29 億円増加したことを要因に、帰属収入は 929 億円と前年度比 29 億円増加しました。

支出の部では、医療経費が前年度比 21 億円増加したことに加え、葛飾医療センター開院に伴う経費増を要因として消耗品費・委託費・資産処分差額等が増加し、消費支出は 873 億円と前年度比 40 億円増加しました。

この結果、帰属収支差額（利益）は 56 億円となり、前年度比では▲11 億円となったものの、予算比では+11 億円となりました。

4、貸借対照表

資産の部では、建物・建設仮勘定・教育研究用機器備品の合計で 66 億円の有形固定資産が前年度に比べて増加していますが、これらの投資は、長期借入金と長期未払金の増加合計 62 億円と現金預金の減少▲5 億円に支えられています。

基本金の部と消費収支差額の部は合計で 56 億円増加していますが、これは帰属収支差額 56 億円によるもので、資産の部では主に有価証券の増加 53 億円になっています。

尚、平成 23 年度末の自己資金比率は約 70%となりました。

5、決算開示方法について

- (1) 平成 16 年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。また、計算書及び事業報告書は大学図書館並びに各病院に備え付けております。
- (2) 貸借対照表における未収入金は、徴収不能引当金 168,079,254 円を控除して表記しております。

以上